

平成 28 年度入学試験

一 般 学 科 試 験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出てください。
2. 退出は試験開始後 60 分以上経過してから可能です。ただし、終了時刻 5 分前以降の退出は、混乱を避けるために、認められません。
3. 終了時間前に退出する場合は、解答用紙の上に問題用紙を重ねて机の上に置き、挙手をして試験監督の許可を得て、静かに退出してください。

Ⅰ 次の国語課題の設問に答えなさい。

国語課題一 次の国語課題の設問に答えなさい。(答えはすべて解答用紙に記入すること)

吉本隆明が『ひきこもれ』(大和書房、二〇〇二年)という小さな本を書いている。若者の「ひきこもり」がシンクロナ問題となり、いかにして社会に「ひっぱり出すか」が盛んに論じられている状況を横目に、吉本はむしろ「ひきこもれ」と言うのである。

もちろん、数年間も自分の部屋に籠もっているような病的ケースには医学的対応が必要である。しかし、「外に出たがらない」とか「人と会うのを避けたがる」などは、誰もが経験することだ。この世の中は社交好みの外向き人間だけではない。たくさんの内向きな人々がいて、それぞれに仕事をし生活している。彼らは基本的に「ひきこもり」なのだが、それはそれで別の豊かさをエンジョイしている。「私はひきこもりではないか」などと悩まなくてもいい。無理に世間にしゃしゃり出なくてもいい。それに、外向きの人たちも時には「ひきこもり」をした方がより豊かに生きられるはず。マスコミの口車に乗せられるくらいなら、みんな「ひきこもれ!」。こんな感じの主張をしている。

私はこの吉本の主張に「コウカン」をもつ。一〇代から二〇代にかけて、私は自分の内向性に悩まされた。三〇代からは意外な外向性を発見すると同時に、やや「躁鬱」気味になった。鬱の時にはそれはひどく自身の内向性を呪ったものである。体質的に似たところがあるのだろうか、二四才の秋に吉本隆明の詩集を手にして以来、折にふれて読み返してきた。今度の小さな本で吉本は外向／内向の区別を言葉の種類に関連づけている。言葉には二つの側面があるのだ。一つは、他人に何かを伝える道具としての言葉。もう一つは、自分のなかにある感覚を外に出す言葉。伝達的手段と自己の表現、その二つがあると言うのである。

ぼくは、言語には二種類あると考えています。

ひとつは他人になにかを伝えるための言語。もうひとつは、伝達ということは二の次で、自分だけに通じればいい言葉です。

「ア」、美しい風景を目で見て「きれいだね」と誰かに言ったとします。これは、自分の視覚が感じた内容を指し示し、ほかの人に伝える言葉です。自分の心が感じた内容を表現してはいるのですが、それを他人と共有するという要素も同じくらい大きい。これが第一の言語です。

それに対して、たとえば胃がキリキリ痛んで、思わず「痛い!」と口に出してしまったとする。この時の言葉は、他人に伝えることは二の次です。つまり、意味を指し示して他者とコミュニケーションするためではなく、自分が自分にもたらずために発した言葉である要素が強いのです。これをぼくは、第二の言語であると考えます。(吉本隆明『ひきこもれ』、三一頁)

外向きの人たちのアンテナは他人に向けられている。いつも大勢の人と一緒にいて、話をしコミュニケーションするのが好きなのだ。だから、他人に伝達する言葉(「第一の言語」)が得意である。「イ」、内向きの人々は自分の内側の動きを聴きとろうとする。一人でいるのが好きなのだ。すると、自分のなかの感情や感覚を表すような言葉(「第二の言語」)に熟達する。吉本によれば、伝達手段としての言葉は外に向かう「感覚器官の言葉」であり、自己表現としての言葉は内に向かう「内臓の言葉」である。日々の社会生活のなかで他人とのコミュニケーションはなくてはならないものだが、人の一生はそれだけではない。自己表現もまた大切なのだ。まして「ひきこもり」を「シショウ」する吉本としては、この「自分のために自分の内側を表現する言葉」の重要性を「リキセツ」したくなる。

大勢の人の集まりで巧みな話術や「愛嬌」で場を盛り上げる人が、個人的に話してみると案外に退屈なことがある。反対に、片隅で一人つまらなそうにしている人が、人間的には意外に魅力的だということがある。コミュニケーションが上手だということと、自己表現に熟達しているということは、たしかに別なのだ。

③このことを吉本はさらに「意味」と「価値」の区別を使って説明しようとする。コミュニケーションの言葉は他人に通用する「意味」に満ちている。これに対して、自己表現の言葉はまず自分自身に対してかけがえのない「価値」を帯びる。そして、この「価値」はそれと

なく他者にも感じられるものである。^⑧寡黙で口下手だが、どことなく深みのある感じ。「ひきこもり」の内向き人間は「意味」の言葉は苦手でも「価値」の言葉は得意なのだ。

ひきこもって、何かを考えて、そこで得たものというのは、「価値」という概念にびたりと当てはまります。価値というものは、そこでしか増殖しません。

一方、コミュニケーション力……大勢の人がいる中に入っていく場合、それは確かに第一番手に必要な能力かもしれません。

しかし、それは「意味」でしかない。「意味」が集まって物語が生まれるわけですから、そういう経験も確かに役に立ちます。

けれども、「この人が言っていることは奥が深いな」とか、「黙っているけれど存在感があるな」とか、そういう感じを与える人の中では、「意味」だけではなく「価値」の増殖が起きているのです。それは、一人でじつと自分と対話したことから生まれているはずす。(同書、二六～三七頁)

一人になって、他人に伝えることなど考えないで、まずは自分の内側にあるものを外に表そうとすること。沈黙のうちに自分自身と対話すること。ここから言葉の「価値」が生まれる。自己表現の言葉の場合、「意味」は少なくとも「価値」は多いのである。

そういえば、会議や話し合いの場を観察していると思いがたることがある。一方には、得意の論力を駆使しつつ、大量の「意味」を提供してくれる人たちがいる。それは議論の役には立つのだが、その人が言わなければならぬという必然性に欠けている。他方では、話が飛躍して「意味」がよくわからず、議論の流れからそれているのだが、それでも、その人の考えの深さや独自性を直感させるような人がいる。

コミュニケーション(意味)の言葉と自己表現(価値)の言葉。ウ、どちらがより高級だとか、どちらが偉いということではない。人間の言葉にはその二面性がつきまといっている。「意味」に傾くか、「価値」に傾くか、その傾き方の度合の問題がつけねにある。しかし、現在の「情報社会」は一方的に意味(コミュニケーション)を偏重してはいないだろうか。マスメディアの世界だけではない。学問の世界でも、人文科学や社会科学の分野でさえ、「言葉」といえば意味(コミュニケーション)という枠組みでしかものを考えられなくなっている。

「ひきこもり」を推奨するかどうかは別にしても、現在、言葉の二面性に、コミュニケーションとは異なる自己表現の言葉に光をあてること^⑨が大きな意義をもつと思われる。言葉の意味だけでなく価値に目をとめ、耳を澄ますことが、たんなる論力にとどまらない言葉の豊かな力の復権につながるはずだ。

(宮原浩二郎『論力の時代 言葉の魅力の社会学』勁草書房、二〇〇五年)

問一 傍線部①～⑧の、カタカナを漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で書きなさい。

問二 空欄ア～ウに入る適切な言葉を、次から選んで記号で答えなさい。(同じ記号を二度使わないこと)

- a 要するに b たとえば c 他方 d もちろん e しかも

問三 傍線部(1)「感覚器官の言葉」に秀でた人は、どのような能力に長けているか。吉本隆明の言葉から、該当する語句を○文字で抜き出しなさい。

問四 傍線部(2)、「内臓の言葉」の性質として適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 心臓が震えるような感動を呼び起こす言葉
b 自分の心の感動を他人と共有するような言葉
c 自分自身に対して多くの「価値」を有するような言葉
d 考えの深さや独自性を直感させる「意味」ある言葉
e 他人に伝えることを重視した沈黙の言葉

問五 傍線部(3)、「このこと」とはどのようなことか。五〇字以内で説明しなさい。

問六 吉本隆明の娘(吉本ばなな)の作品をa～eから選びなさい。

- a 『サラダ記念日』
- b 『蛇にピアス』
- c 『ノルウェイの森』
- d 『窓ぎわのトットちゃん』
- e 『キッチン』

問七 本文の内容に一致するものを次のa～eの中から二つ選びなさい。

- a マスコミの口車に乗せられるくらいなら、自身の内向性を恥じることなく引き籠もるべきであり、そうした苦しい経験を乗り越えることによって、コミュニケーション能力の増殖が図られていく。
- b 言葉には外向的な性質と、内向的な性質があり、伝達手段として外に向かう言葉は「感覚器官の言葉」、自己表現として内に向かう言葉は「内臓の言葉」と、それぞれを言い換えて表現することが可能である。
- c 吉本隆明が述べるように、どのような場合でも「ひきこもる」ことが重要であり、そのことによって言葉の価値が増殖されて、現代社会で失われつつある豊かな言葉の復権につながっていく。
- d 自己表現の言葉の「意味」だけでなく、コミュニケーションの言葉の「価値」に目をとめ、耳を澄ますことによって、現代社会の言葉の力を引き出していくことが重要である。
- e コミュニケーション能力を駆使して議論に役立つ大量の「意味」を示す人がいる一方で、「意味」がよく伝わらないながらも、その人の考えの深さや独自性を感じさせるような人がいる。

問八 二重傍線部「たんなる論力にとどまらない言葉の豊かな力」とは、どのような力だと考えますか。あなたの考えを書きなさい。

国語課題二 次の①～⑤の四字熟語について、その読みを書き、その意味をア～カから選んで記号を答えなさい

- ① 合縁奇縁
- ② 一汁一菜
- ③ 我田引水
- ④ 首尾一貫
- ⑤ 和洋折衷

【意味】

- ア 質素な食事の例え。
- イ 初めから終わりまで矛盾がないこと。
- ウ 和風と洋風を適当に取り合わせて用いること。
- エ 人心の不思議さは因縁だということ。
- オ 自分の都合の良いように物事を運ぼうとすること。

平成二十八年年度入学試験 一般学科試験

桐朋学園大学音楽学部

解答用紙

専攻	
受付番号	
氏名	

--

I 国語課題一

問六	問五					問四	問三	問二	問一		
								ア	⑦	④	①
問七								イ	⑧	⑤	②
								ウ		⑥	③

④	①
⑤	②
	③

国語課題二

問 八

Ⅱ 次の各設問に答えなさい。

問 1 次の英語を日本語にきなさい。

1. What a nice essay you have written!
2. Look! He is sleeping. We must not make any noise.
3. I haven't seen my former teacher for more than twenty years.
4. We are interested not in what you have but in what you have done.
5. That is the famous building which we learned about in our history class.
6. Though she is hard to please, I still like her.
7. If you know what to do next and how to do it, you should do it.
8. I think it necessary for us to prepare for the worst.
9. They decided not to buy the house. It was more expensive than they had thought.

問 2 次の日本語を英語にきなさい。

1. 私は今日の午後、新しい靴を買うつもりです。
2. いつも良き友人であることは簡単ではない。
3. A) 「あなたは今までに京都に行ったことがありますか？」
B) 「はい。去年家族と行きました。」
4. なぜ私たちは外国語を学ばなければならないのですか？

問 3 次の英文を日本語に訳きなさい。そして、その内容について、あなたの考えを 30～40 単語程度の英文で書きなさい。(数字を使う場合は、年代以外は英語のスペルで書くこと。)

Bad luck often brings good luck.

Ⅱ 解答用紙

問 1.

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.

問 2.

1.
2.
3. A) B)
4.

問 3.

訳：
自分の意見 省略.....